

棚田発！日本こころプロジェクト

代表者 吉田 楓 (農学部応用生物科学科 1 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米のすばらしさをより多くの人々、特に香川大学生、香川県民に知ってもらうことを目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため、景観の保全が大きな問題となっています。日本とインドネシアの学生が農山漁村に滞在し、地域の直面している課題に取り組むプログラムである SUIJI-SLP や 2 年前の活動の中で、先輩たちが中山の人と関わり「私たちにも協力できることはないだろうか。」と考え、このプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さをさまざまな人々に伝えることで、小豆島中山地区の棚田の保全と地域振興を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

令和 6 年 4 月 21 日から 令和 6 年 11 月 3 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、例年の活動を基に継続、発展させたものです。お借りした棚田の一部での耕作活動に加え、水路掃除や祭り、農村歌舞伎、虫送りといった小豆島中山地区の事業にも参加しました。また、収穫祭という香川大学農学部の行事では、中山地区でつくられたお米を使ったおにぎりづくり体験を実施しました。

お借りした棚田での耕作活動として、学生が中山地区の農家の方々から作業をご指導していただきながら、6 月に荒づくり、本作り、田植え、（どろんこ遊び）夏から秋にかけて 2 回の草刈りを経て、10 月下旬に稲刈り、脱穀まで参加させていただきました。それ以外にも、4 月には、棚田周辺の水路掃除、6 月には、虫送りに使われる火手作り、7 月には、虫送り、8 月には祭り、9 月には、農村歌舞伎にも参加させていただきました。11 月には、香川大学農学部伝統の収穫祭が行われ、私たちは中山地区のお米を使ったおにぎりづくり体験を実施しました。耕作活動を行う中で、農家の方々に教わるだ

けでなく、地域の小学生を対象とした田植え体験や稲刈り体験などを開催することによって、教える立場として棚田に関わることで、幅広い世代と米作りを通して交流することができました。また、農学部で開催された収穫祭では「棚田の会」として活動報告、中山地区のポストカードや1合のお米、チラシの配布、中山地区のお米を使ったおにぎりづくり体験を行ったことで、中山地区の棚田や私たちが行っている活動について詳しく知ってもらうことができました。

棚田の耕作以外にも350年以上前から伝わる中山地区の伝統行事である虫送りに用いられる火手の製作、受付や案内などの虫送りの運営、募金活動、周辺の交通整理など、地域の行事をサポートする活動も行い、中山地区の伝統文化維持に貢献することができました。

今年度の活動としては、棚田の会オリジナルTシャツを作製し、多くの人が視覚的に私たち（棚田の会）を知ってもらえるようにしました。またそれ以外にも、今年は昨年や一昨年に比べ、中山地区で多くの活動を行うことができました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことによって、中山地区の地域社会の活性化に寄与することができました。収穫祭においては、私たちの活動を香川大学の学生や地域の方々に伝えられ、興味を持ってもらうことができました。また、農学部の留学プログラムである SUIJI-SLP と共同してインドネシアの学生にも、中山地区の棚田について知ってもらうことができました。このことは、中山地区の棚田を多くの方々に PR することができたと感じています。耕作だけでなく、さまざまな活動を行ったことで、少子高齢化が進む中山地区において後継者不足に対する手助けとなる活動を行うことができ、棚田の維持に繋げることができたと考えています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトの構成員は昨年度からの参加者を除き、多くは農業未経験者であったため、中山地区の農家の方々から作業をご指導していただき、実体験として農業を学ぶことができました。中山地区の棚田では、急斜面や狭い道があるため大規模な機会が使えず、場所によっては手作業や小型の機会を使い、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法や大変な点などを学びました。また、こうした耕作作業は学校の授業などではなかなか体験できないため、貴重な経験であったと感じています。プロジェクトの活動は、学生だけでなく、地域の方々との連携も重要であり、次第に地域の現状が見られました。そのため、地域が抱えている問題点や課題を知ることができ、これらの問題に対して、地域の方々から直接話や意見を聞いて、私たちができることについて考えることができました。棚田の会での活動は、普段関わることのないような年代や多くの職種の方々と交流し、広い視野を持つことができました。これらの経験は、今後の学生生活や就職活動においても役に立つものであると実感しました。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点として、SNS を活用できていなかった点があげられます。今年は、代の引継ぎが2年生でなく、1年生が引き継いでいるため、初めてのことが多くそこまで意識が行き届かなかったので、来年度は、広報担当という役職を作り、SNS を活用していきたいと考えています。

今後の展望として、棚田の会を正式なサークルにしたいと考えています。そのために、教員の方と話し合ったり、手続きを行ったりしたいと思っています。正式なサークルになることで、今まで以上に活動がしやすくなりと考えます。また、中山地区に対して私たちができることを考えるミーティングの時間を活動終わりに設けたいと考えています。今までは、個々で問題を考えることが多かったですが、話し合い意見を共有する場面を設けることでいろいろな価値観がぶつかり合い、より良い考えが生まれて、中山地区の方々の力になれるよう、活動を続けていきたいと思っています。

7. 実施メンバー

代表者	吉田 楓（農学部1年）	
副代表	伊賀 亮（農学部1年）	香西 徳太郎（農学部2年）
	宇都宮 舟（農学部1年）	高見 樹希（農学部2年）
会計	松崎 美咲（農学部1年）	太田 康晴（農学部1年）
広報	仲尾 綾香（農学部1年）	島津 穂乃歌（農学部1年）
	裏住 隼矢（農学部院生）	松浦 藍斗（農学部1年）
	竹内 成太（農学部院生）	村川 明日香（農学部1年）
	小林 智紀（農学部4年）	中 菜々生（農学部1年）
	村口 絢（農学部4年）	畠山 修宗（農学部1年）
	横山 愛由（農学部4年）	出口 奈月紀（農学部1年）
	岡田 柊香（農学部3年）	
	岡田 結衣（農学部3年）	
	金本 夕凜（農学部3年）	
	武田 奈々（農学部3年）	
	野田 聖（農学部3年）	
	檜尾 彩奈（農学部3年）	
	松原 晟良（農学部3年）	

8. 執行経費内訳書

配 分 予 算 額		299,840円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
旅費：高松—小豆島（4月）	13	1,330	17,290	
旅費：高松—小豆島（6月）	30	1,330	39,900	
旅費：高松—小豆島（7月）	13	1,330	17,290	
旅費：高松—小豆島（8月）	5	1,330	6,650	
旅費：高松—小豆島（9月）	7	1,330	9,310	
旅費：高松—小豆島（10月）	10	1,330	13,300	
旅費：宿泊費(6月)	15	1,000	15,000	
旅費：宿泊費(7月)	13	1,000	13,000	
旅費：宿泊費(10月)	13	1,000	13,000	
物品：長靴	9	3,188	28,692	
物品：炊飯器（10合炊き）	2	14,278	28,556	
物品：田植え靴	7	2,968	20,776	
物品：Tシャツ	1	49,680	49,680	←Tシャツ 25
物品：インク（5色セット）	3	6,210	18,630	着（1600×
物品：紙皿（50枚セット）	5	516	2,580	25）+ 手数
物品：割りばし（100膳）	3	350	1,050	料・特急料金
				（9680）円
合 計			294,704	